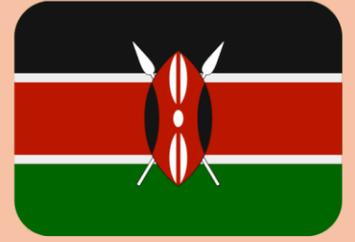


# Pole Pole ケニア通信

2025.1②



JICA 海外協力隊(環境教育) 和田温子

こんにちは！今回は、【環境クラブでの活動】について紹介します。

## まずは学校訪問

ケニアの教育現場はまさに今、新しい教育カリキュラムに段階的に変わっているところです。新しいカリキュラムでは、小学1年生から「環境教育」という科目が導入され、身の回りの環境、リサイクルやごみの適切な処理について学びます。導入されたばかりなので、それ以前の教育では子どもたちは教わらなかった内容です。つまり、ごみそのものについても、あまりフォーカスされることがなかったと言えます。そのような背景もあり、ケニア社会ではごみ処理に関してたくさんの課題があります。新カリキュラムに完全に移行するには、まだ時間はかかりますが、この教育の成果で少しずつごみ問題も改善していくと信じています。

さて、私は1つの小中学校を毎週訪問しています。私の住むエンブタウンにはたくさんの学校があります。私は学校と関わって活動をしたかったので、当初、地図を頼りに複数の学校を突撃訪問しました。自分について紹介し、「環境クラブがあれば参加させてほしい」とお願いしました。ケニアの多くの学校には、「環境クラブ」があります。学校によって異なりますが、校内に木を植えたり、学校農園の手入れをするのが主な活動内容です。環境クラブがあれば、外部の私でも定期的に活動に参加しやすいと考えました。その学校の校長先生やクラブ担当の先生の好意と熱意にもよるのですが、無事に近くの学校に、訪問を認めてもらえました。急に訪ねてきた見知らぬ外国人の拙いスワヒリ語でのお願いを受け入れてくれるなんて、日本ではあまり考えられませんが、これがケニアの良いところでもあります。

ケニアの学校は、小学校と中学校が同じ敷地内(校長先生も同じ)ということがよくあります。私の訪問先には、保育園と高校もあります。環境クラブは中学生がメンバーですが、訪問すると小学生ともたくさん関わることができます。最初の頃は、肌の色が違う外国人が来たことで、子どもたちは大興奮！毎回、30人くらいの子たちに囲まれて質問攻めになりました。ケニアではジャッキー・チェンがとても有名なので、アジア人＝中国人と最初は思われました。しかし今では「こんにちは！」と日本語で挨拶してくれます。日本語で挨拶されるのは、海外にいととても嬉しいものです。足繫く通っているうちに、子どもたちも私の存在にすっかり慣れ、先生方も歓迎してくれるので、私にとって居心地の良い場所になっています。



①



②



③



④



- ① みんな好奇心旺盛、元気いっぱい！ 最初の頃は身動きが取れないほど囲まれていました
- ② 手作りのなわとびで放課後に遊んでいる小学生たち
- ③ 学校の様子を知るため、学校行事のスポーツ大会や文化祭の見学にも行くようにしています
- ④ 外で調理実習をしているところに遭遇。たくさん味見をさせていただきました！

## 環境クラブでの活動

環境クラブは約 25 人の中学生がメンバーで、週 1 回、放課後に学校農園の除草作業や木を植える活動をしています。ただし、日本のように活動時間や活動内容がしっかり決まっている訳ではなく、集まるメンバーもまちまちだったり、半分自由時間になっていたり、学校行事でクラブ活動がなくなる日もたくさんあります。クラブ活動がなくても、私は毎週訪問するようにして、おしゃべりをしたり、学校行事の練習を見学したりして、子どもたちと関わるようにしています。

現時点の中学生たちは旧カリキュラムで学んでいるので、ごみに関する知識を学校では勉強していません。周りにごみが落ちている環境も彼らにとっては見慣れた光景であり、誰も気にも留めません。私は彼らとクラブで作業する時、必ずごみを拾うようにします。私のごみを拾い始めると、彼らも気づいて拾い始めます。「リサイクル」という言葉は浸透してなくても、活用できるものは活用するのがケニア流です。例えば、ペットボトルが落ちていたら、それは「何かを運ぶための容器」としてまだまだ使える資源です。ごみ拾いをしながら、「これはごみ？」「〇〇に使えるんじゃない？」など、子どもたちとやり取りをしています。ごみが落ちていない空間はとても気持ちが良い、ということにも気づいてもらいたいと思っています。

最近、クラブ活動の時間を先生から少しもらい、「ごみに関する基礎知識講座」と「日本語講座」を始めました。そもそも「ごみ」とは何なのか？ごみの種類は？適切に処理しないとどうなる？…という内容を、少しずつ分かりやすく伝えていく予定です。「ポイ捨てはだめ！」と伝えるより、なぜだめなのかということを知ってもらうことが重要だと考えました。それを彼らの家族や周りの人にも伝えていって欲しいと思っています。人々の意識を急に変えるのは大変ですが、このように一歩ずつゆっくりと進めていきたいです。もうひとつ、「日本語講座」では日本語の挨拶や食べ物などの文化を紹介しています。日本について知ってもらうことも JICA ボランティアの役割の一つです。外国人と接することがほとんどない彼らに、少しでも日本について触れてもらいたいと思っています。

①



②



③



④



- ① クラブメンバーに対して、初めての授業。まずは、ごみの種類について勉強します
- ② 日本語の簡単な挨拶も紹介。どの子もノートをしっかりとり、熱心に聞いてくれます
- ③ 「ごみがたくさん落ちている場所、落ちていないきれいな場所、どちらで遊びたい？」写真を多く取り入れ、視覚的に分かりやすく話すようにしています。事前に教材を準備して、学校を訪問します
- ④ 環境クラブの先生方は協力的で、とてもありがたい存在です

①



②



③



④



- ① クラブ活動中。除草作業と木を植えるために土を耕しています
- ② 子どもたちは道具の扱いに慣れていて、木の剪定や伐採はお手のものです
- ③ 雨季になる前に木を植えるため、穴を準備しているところです
- ④ ごみ拾いも一緒に。あっという間にバケツはごみでいっぱいになります